

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦  
岡山国際サーキット  
2018年9月8日(土)

予選 観客:5,400人 天候:曇り

岡山国際サーキットで開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦。秋雨前線の影響で週末は曇りから雨となり、特に日曜日は、雨によってスケジュールが変更を強いられたイベントとなった。出場ドライバー中、これまで最多9勝を挙げている中嶋一貴も、今シーズンは歯車が噛み合わずに3位フィニッシュが最高位。スーパーフォーミュラ再チャレンジのジェームス・ロシターも、苦戦しつつ状況打開を目指した。ウエットコンディションの予選、中嶋は、Q1で16番手に終わり敗退。ロシターは、Q1を突破したものの、Q2で13番手となって、Q3に進むことができなかった。



- 予選開始直前に雨が止んだが、コースはウエット。各車ウエットタイヤを装着してタイムアタックを開始した。
- Q1の開始早々、数台がコースオフして赤旗が提示されて中断。再開後のアタックでロシターはタイムアップして9番手タイムでQ1突破。しかし、中嶋は、思うようにタイムアップできずに敗退となってしまった。
- Q2に進出したロシターは、Q1のタイムをコンマ1秒以上更新したが、Q3進出ができるトップ8に加わるができずに予選を終えた。

Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
中嶋一貴	36	P16 1:28.821		
ジェームス・ロシター	37	P9 1:27.747	P13 1:27.614	

天候	雨/ウエット	
気温/路面温度	気温 21-21度C	路面 26-26度C

中嶋一貴 (36号車ドライバー)



「金曜日(ドライ)から走るたびに違ったトライをしているのですが、全く思ったような方向にセットアップが決まらない。決してバランスは悪くないのですが、ピークグリップが低くて、結果的にタイムが悪い。だから Q1 も突破できないという、最悪な結果です。決勝ではなんとか少しでも良くなることを期待しています」

ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)



「Q1は良かった。ところが突然 Q2 でリヤがグリップしなくなりました。それでもタイムアップしたが、他のマシンはもっとタイムアップしているので、そこで予選は終わってしまいました。岡山には期待していただけに、すごがっかりだ。両親も観戦に来ているので良いところを見せたかった。決勝で頑張るしかない」

小枝 正樹 (36号車エンジニア)



「いろいろなトライをしています。全て決して悪い方向ではないのですが、ウエットコンディションで思ったようなタイムアップに繋がっていませんね。グリップが不足しているのでそれを改善するセットアップをして、タイヤは、ユーズドをフィットして出て行ったのですが、上手くいきませんでした。この状態で手をこまねいていられないので、決勝に向けて改善すべく頭をひねり、策をひねり出します」

東條 力 (37号車エンジニア)



「Q2へ進出できたのは、少しずつ良くなっているという証明ですね。しかし、それだけでは満足できない。金曜日のドライでの走行では、かなり良い感触でしたが、予選でウエットになって状況が変わって来てしまいました。それでも Q1 は、良かった。しかし、Q2 でセットしたタイヤが <突然グリップしなかった>と。特にリヤが全然グリップしてくれなくて Q2 を突破できずに終わってしまいました。ウエットですからかなりリヤ寄りのセットアップをしているのですが、その原因を究明して決勝に臨みます」

館 信秀 (チーム監督)



「ジェームスに関しては、若干の進歩が見られた。前戦のもてぎでセットアップの改善点が見つかり、東條エンジニアとともにマシンセットアップが進み、Q1を突破できたけれど、そこまだった。それがチームの現状なのかな。一貴は、今回も苦しみ抜いている。考えられる限りのトライをしていると報告を受けているけれど、それが限られた時間の中で結果に結びついていない。決勝はどうなるか。雨の可能性がかなり強い。その中でもトムスらしいレースができればと祈っている」

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦  
岡山国際サーキット  
2018年9月9日(日)

**決勝** 観客: 8,000人 天候: 曇り

秋雨前線の影響によって前日夜半からの雨で全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦の舞台、岡山国際サーキットはヘビーウエットコンディションとなってしまった。大幅にタイムスケジュール、周回数の変更がされて決勝レースが行われ、VANTELIN TEAM TOM'Sの36号車、中嶋一貴は、17位。37号車のジェームス・ロシターは、11位でレースを終えた。



- 天候の好転を期待してスタート時間が1時間遅らされることとなった。加えて決勝の周回数は68周から54周へ短縮された。また、レースの最大時間は90分から70分に短縮された。
- コース上の水量が多く、セーフティカースタートとなった。しかし、雨脚が強いためにSC走行中の7周目に赤旗が提示されて、走行は一旦中断された。
- 約50分のインターバルの後に再びSC先導でレース再開。12周終了時点でSCはコース外退去。
- 13周目から21周までレースが進んだところで再び雨が強まってSCがコースイン。コンディションが若干好転、26周終了でSCが退去。
- しかし、再び雨脚が再び強まって32周からSCランとなり、70分を経過した34周終了時点でチェッカーフラッグが振り下ろされてレースが終了した。ロシターは、11位。中嶋は12位でゴールラインを切ったが、中嶋は、レース中に他車と接触したことで30秒加算のペナルティを受けて最終結果として17位となった。

Driver	Car No.	Position/ Best Lap Time	
中嶋一貴	36	P17	1:31.866
ジェームス・ロシター	37	P11	1:32.137

天候	雨/ウエット	
気温/路面温度	気温 21-22度C	路面 26-25度C

**中嶋一貴 (36号車ドライバー)**

「完全にグリップ不足、戦闘力不足。何をどうして良いのか分からず終わってしまった、というところ。順位アップしたのは、ナレイン(カーティケヤン)がスタートでエンジンストール。赤旗中断後再スタート後に福住とディルマンが接触、2台がコースオフ、次に大嶋と接触。また福住に抜かれてと、ドタバタ。なんとかコース上に留まるという最低限の仕事はしました。しかし、この状況はなんとかしたいです」

**ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)**

「一貴も自分もかなり苦労している。ペースはまずまずだったけれど、山本選手の後ろで抜くことができずにフラストレーションが溜まった決勝だった。何回か彼に衝突してしまうような状況もあった。パスできていればもう少し結果は良かったかもしれない。しかし、トムス全体として現状が精一杯だったかもしれない。改善点を探っていないのが厳しい状況だ。最終戦の鈴鹿前に何かの改善策が見つかることを期待している」

**小枝 正樹 (36号車エンジニア)**

「八方塞がりでした。走るたびにセッティングを変えて、それが悪い方向ではなくて、バランスは良くなっているのだけれどそれが速さに結びついていないという状況でした。ジェームスも含め、東條エンジニアともいろいろと相談してなんとか打開策を最終戦までに見つけ出します」

**東條 力 (37号車エンジニア)**

「ドライバーがなんとかコース上に留まってくれて、ゴールすることはできましたけれど、あまり良いレースではなかったですね。レースを終えてドライバー達とも話し合っって現状を把握しました。タイム的にはジェームスより一貴の方がよかったですけれど、共に予選の位置が悪かったのであれが精一杯でした。最終戦の鈴鹿はドライで良いところを見せたいです。ウエットでも昨年ポールを獲得しているので期待してます」

**館 信秀 (チーム監督)**

「どうも歯車がうまく噛み合わない。今シーズンのわがチームの低迷を象徴したようなレースだった。ドライバーのドライビングとエンジニアのエンジニアリングがうまく噛み合っていないのか。上位チームのようなレースができていない。残すは、最終戦の鈴鹿だけとなってしまった。なんとか来シーズンに向けて良いレースができればと思っている」

※次戦は、10月27-28日に、三重県の鈴鹿サーキットにて、シリーズ最終戦が開催されます。